

食事制限者向けの非常食を
開発した米穀販売会社の社長

阿部 あべ

信行さん(50) のぶゆき

新潟市秋葉区

社長を務めている米穀販売会社「エコ・ライス新潟」(長岡市)の商品「はんぶん米」が、「IDSデザインコンペティション2008」(にいがた産業創造機構など主催)で大賞を受賞した。同コンペは地域ブランド構築を目指し、新商品とそれに関連した新たなシステムを対象に審査を行うユニークなものだ。

はんぶん米は食事制限中の患者向け非常食。評価されたのはそのアイデアに加え、賞味期限の五年が過ぎた後は同社が引き取り、リサイクルして家畜飼料などに回すというシステムだった。自らも農家だけに「米の持つ可能性が評価されたと思う。農家としてうれしい」と喜びを語る。

はんぶん米には、低タン

安全でエコにも重点



パク米「春陽」を使用して
いる。開発のきっかけは中
越地震。高齢者や食事制限
中の患者向け非常食の備蓄
がなく、避難所では腎臓病

の社員や知人の人工透析患
者が「食べられる物がない」
と困っているのを目の当た
りにしたという。

が四千食を備蓄し、県外の
自治体も購入の予定だ。
現在は、糖尿病などの患
者向けに難消化性デンプン
を多く含む米で、血糖値上

「疾患のある人が安心して
食べられる非常食を作れ
ないか」。こう考えて六年
ほど前から自身の水田で栽
培する春陽を使って開発を
始め、長岡造形大や長岡高
専とも協力し、昨年九月に
販売を開始した。既に本県

昇を抑えるレトルトがゆの
開発にも取り組む。「これ
からは高齢化が進み、食事
制限のある人が増える。そ
ういう人のことを考えて
作物を作らないと。将来は
世界中の人に食べてもら

い、社会の役
に立ちたい」
と熱っぽく語
る。

写真「味が
良く、安心で
安全なものを
提供していき
たい」と語る
阿部信行さん
(長岡市脇川
新田町)